



いつも「トンガレポート」をご覧いただきありがとうございます。トンガレポート2 までご覧の皆様から「卓球隊員なのにどうして卓球の話題が出てこないのですか」というご質問をいただきました。

私は卓球の話題を早く皆様にお知らせしたいと常々思っています。しかしトンガではあまりにも日本と環境・文化・習慣が異なるため、どうしても皆様にはそれらを先にお知らせすることが必要と感じています。その上でトンガで卓球をすると「何が起きるか」ということを後ほど詳しくお伝えしたいのが私の本音です。ここで目にするものや日々起きる出来事はすべて日本の皆様にお伝えしたい話題です。

そのため今回も生活に密着した身近な話題を先にお届けします。どうか私の心の内をご理解いただき最後までお付き合いいただきますようお願いいたします。

### 1、郵便・通信事情

普段の生活で、ある日突然日本と常識の違いに気づくことが多々あります。日本には各戸に必ずある「郵便受け」をこの国では見たことがない！ それに気づき職場への往復や買い物の際に注意深く観察しましたが、やはり無い。それどころか街角にあってもよい「郵便ポスト」や日本では日々お見かけする「郵便配達員」の方々姿を一人も・一度も見たことがないのに連鎖的に気づきました。

近年はインターネットの普及により郵便による通信手段の依存率が低くなっているのは知っていても無くなることはないはずですが。これはいかなることか？ 私にとっては大きな疑問となりました。

トンガに郵便局はあります。私がトンガに到着時、紹介されたのが左画像の赤丸部分です。首都中心部のオフィスビルの一角にあります。



もう一つは少し郊外にある小包専用の郵便局です。

トンガ出発前に日本から生活用品を段ボールで3箱発送し、航空便で1か月かかってここに到着。

各箱とも 10kg 前後の重量でしたが大柄な女性職員が事務所の奥から 1個ずつ笑顔とともに軽々と運んできてくれたのを覚えています。

ある日、卓球の選手にトンガの郵便事情について尋ねてみました。すると、郵便物発送の際は郵便局に出向いて発送。これは特に違和感なく納得。では受け取りの際は？ 自分で郵便局に受取りに行くということでした。日本でいう「セルフサービス」です。ではどうやって到着を確認するのかと聞くと郵便物の対象ほとんどが海外からで事前に差出人から連絡があり届いた頃を見計らって郵便局に行くか郵便局から電話が入り取りに行くかのどちらかだそうです。まあ、よほど急ぎの用でもない限りこの国においては「だいたい」といった感覚で済んでいくようです。なお、私が生活するトンガタブ本島全体で郵便局は上の 2つしかないということでした。

後日、トンガ協力隊員の活動報告会でこの国の携帯電話普及率が 90% 以上ということを知りました。

トンガ国内の通信のほとんどは携帯電話とそれを利用したメールで済ませているようです。私の携帯電話にも日曜を除く毎日、5通以上のさまざまな広告メールが入ってきます。卓球のナショナルチーム選手も全員携帯電話を持っています。練習中に携帯電話の使用は禁止してありますが、休憩時間になった途端に携帯電話を操作している姿は日本の高校生とさほど変わりありません。

インターネットの接続にはいろいろな方法があります。私は Digicel という通信会社から画像の「ポケット Wi-Fi」を 100 パアング、日本円 5,000円少々で購入。これなら通信会社と月々の契約をしなくて済み、手軽なため選択しました。これをパソコンに接続しています。初回代金には 1ギガ 分の通信容量が機器の SIMカード に記憶されておりそれを使い切ると Digicel の営業所へ行き 1ギガ あたり 15パアング、約 750円で買い足して使用しています。1か月の平均使用量は 5ギガ、3,800円前後です。



引越し前は通信容量買い足しの際も自転車で往復 1時間かかりましたが現在の住居からは徒歩、往復 15分で済むため楽になりました。

さらに離島に住む隊員から郵便の情報を得ました。人口 5,000人のその島に郵便局はなく、代わりに TCC( Tonga Communication Corporation ) という通信会社が郵便局の機能を代行しています。日本から荷物を送ってもらう際その隊員はホームステイだったためホストファミリーに住所を聞いたところ、「国名・島の名前・村の名前・主の名前」以上。やはり「だいたい」で終わりだったため驚いたそうです。それを日本の家族に伝えて荷物の到着を恐る恐る待っていたところ航空便で 1か月かかり無事届いたということでした。しかも本来は配達されないはずなのに突然 TCC の車が職場に来て荷物が届き本人もびっくりしたそうです。5,000人の島内人口に対し何の届もしていないのに当時その島に 6名の協力隊員がおり、その住居どころか職場も把握されていた事実に対し感服する次第です。当の本人は荷物を受け取りに行かなくて済み助かったと申ししていました。

ついでに郵便といえば「切手」。郵便の話題を取り上げたためはるか昔の記憶もよみがえりました。多くの皆様も幼少の頃、一度は「切手収集」の趣味をお持ちだった経験があるのではないのでしょうか。私も小学校の中・高学年時代に切手収集に夢中になった時代がありました。



そうそう、当時トンガといえばこのバナナ型とココナッツ型の切手を発行したことで有名でした。今ではシール式の切手もさほど珍しくありませんが、当時切手といえば縦長か横長の長方形で周りにミシン目が刻んであるものが普通でしたのでこの切手の発行は衝撃的でした。どうやって手に入れたか覚えていませんが、私も上の画像のうちの何点かを持っていることを思い出しました。自宅で切手帳の中を探せば見つかると思いますので帰国の際に確認したいと思います。

トンガの生活で日本への通信手段は 100% インターネット経由のためこれまで一度も郵便を利用したことがありませんが、現在トンガではどんな切手が発行されているのか一度郵便局を訪ねてみたいと思っています。

## 2、電柱

何でも話題になります。これもある日突然気付きました。「木製の電柱」。何気ない光景のようですが、現在日本に木製の電柱は存在しますでしょうか。私が幼少の頃、電柱は 100% 木製でしたので今日まで違和感なく過ごしていました。

そういえば日本で現在電柱はコンクリート製、都市部では



電線やケーブルは地下埋設のため電柱自体も見かけません。

これまで私のトンガレポートをご覧いただいた方から「昔の日本の姿がそこにある」との感想をいただきました。私もまったく同感、かつて自分が育った環境に近いものがトンガにあるため親しみを感じるのかなと思います。

右の画像には複数の電柱が写っているのですが、手前の一本以降は直立した奥の椰子の木と同化して識別できません。



電柱の材料となるのは

椰子の木。多少曲がっているものもありますが割とまっすぐ生えているのが2枚の画像から確認できます。電柱の材料にはこと欠かないことからこの状況は今後も続くものと思われます。

なおそれぞれの電柱は「太さ・長さ(高さ)」ともに一律ではありませんし、微妙に曲がっているものもあります。しかし、すべてを含めて電柱としての用をなせば「だいたい」でいいというのがここでのお国柄とお見受けしています。



### 3、「水」事情

トンガに郵便受けは存在しませんが、各戸に絶対あるものが「雨水タンク」です。島国のため水は貴重です。そのための工夫として雨水を効率的に利用しています。画像は我が家の「雨水タンク」です。

本体の素材はグラスファイバー製ですが全体がコンクリート製のものも目にします。何リットル入るか表示がないので容量はわかりませんがとにかく大きいことは確かです。降雨の際、屋根に降った雨が雨どいを経由してこのタンクに貯蔵され余った分は外部に排出されます。トンガの家庭では水道水と雨水の両方を使用するのが一般的です。現在の我が家では台所の水が水道水専用「雨水タンク」からの水は洗面所・浴室・トイレ・洗濯機に供給されています。



トンガの水道水はそのまま飲んでもよいといわれていますが、私は用心のため電気ポットで沸かしてしてコーヒーを、または鍋で麦茶を沸かしてから、いずれも一度煮沸して飲むようにしています。煮沸前の水道水と雨水では口にしたときの味が異なり雨水の方がかなり甘いと感じます。当然、雨水タンクにはフィルターが付いていると思いますが、屋根から直接タンクに雨水が入っており、かなりの「不純物」が混入していることは容易に想像できます。そのため甘さの原因についてあまり深く考えないようにしています。我が家で雨水を口にして味を確認するのは歯磨きの時だけで、もちろんそれを飲むことはありません。

以前の住居では同じく水道水と雨水の両方を使えるような仕組みでした。ある日水道工事のため水道水がストップした際、大家さんから雨水への切り替えをうまく伝えていただけず2日間断水状態で大変つらい日々を過ごした経験があります。初日の夕方、幸い夕立があったため屋根から流れる水をペットボトルに溜めて体を洗い、余った水をトイレに流しました。日本で震災に遭われた方々はこれ以上の苦勞をされたと思うと、トンガであらためて水の貴重さを感じました。以降、トンガでも余分なものを除き使用済みのペットボトルには非常時に備え水を備蓄しておくよう心がけています。

いつの間にか今回は3つの話題でいつもと同じ容量がいっぱいになりましたのでトンガレポート<3>はこれで切り上げます。卓球の話題をお待ちの皆様には申し訳ありませんがこの後のトンガレポート<4>または<5>をお待ち願います。

この後、できるだけ早くトンガレポート<4>をお伝えできるよう努力いたします。